

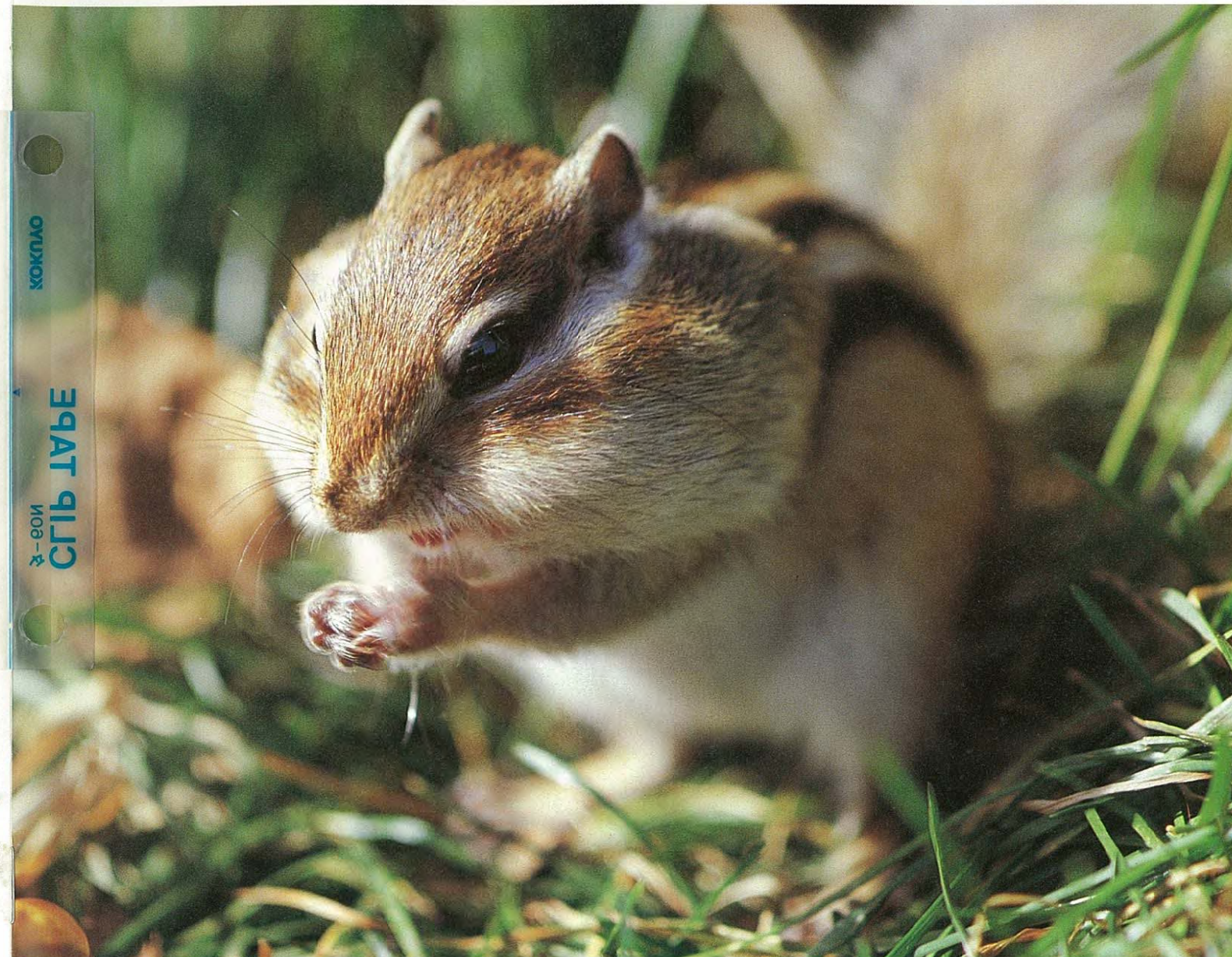
RESPONSIBLE CARE



レスポンシブル・ケア

日本レスポンシブル・ケア協議会

〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-6 東京倶楽部ビル4F
TEL. 03-3580-1381 FAX. 03-3580-1383



1997
秋季号

index	
知っておきたいRC用語.....2	JRCC 会費基準変更6
Voice.....3	● RC実施の宣誓 それがあなたのJRCC入会資格です
● 化学連合会長 河内山 大作さん	News Topics8
from Members【第5回】.....4	● レスポンシブル・ケア四日市地区・水島地区 地域説明会開催
● 富士写真フイルム株式会社 取締役副社長 大村 力さん	RCを語る10
	JRCCだより11

知っておきたいRC用語

エンドクリン問題

昨年3月に米国で出版された“OUR STOLEN FUTURE (奪われた我々の未来)”が、それまでの各種の調査報告書、試験報告書、インタビュー等を基に「環境中に放出された、DDTやPCB等のいわゆる残留性塩素化合物等に代表される合成化学物質の中に、天然ホルモンと類似の作用をするものがあり、これが野性生物や、ヒトの内分泌(英語名: エンドクリン、通称名: ホルモン (代表的なものとして、エストロゲン(女性ホルモン)、アンドロゲン(男性ホルモン)等があります。))作用を攪乱するため、野性生物に起こっている生殖異常等の深刻な影響が人間にも及んでい

る」という“説”を主張。基礎的且つ科学的研究の実施と早急な対策を講ずるよう、強く警告を発したことから急速に世界的に関心が高まったもの。

欧米では環境学者、社会学者、動物学者、大学や企業等の研究者を含め、この説に対して支持論と否定論がありますが、結論を下すには未だ十分な科学的根拠があるわけではなく、今後の調査・研究を待つというのが大勢であります。

現在、日本(日化協)も、また、国際的にも、産・官・学挙げて協力関係を築きながら、事実関係の解明に向けた調査・研究を実施しつつあるところです。

Voice

社会的責任をふまえて 環境対策に全力

化学連合会長
河内山 大作



今日、地球温暖化やダイオキシン汚染の拡がりなど、環境問題が改めて深刻な事態に陥っていることが明かとなり、こうした状況を打開する積極的対応が各方面に求められています。

私たちの国際上部組織であるICEM(化学エネルギー鉱山一般連盟)では、各国労組に対して「レスポンシブル・ケア運動の取組み実情調査」をしています。私ども化学連合は五月に東京、大阪の2ヵ所で環境シンポジウムを開き、日本RC協議会の川又事務局長代理の出席を得て、これからのRC活動の進め方を協議するなど、労組サイドの取組み気運は強まっています。

私たち労働組合は、企業レベルの労使協議を通じて環境・安全面の企業行動に対するチェック機能の役割をしっかりと果たすと共に、産業レベルで労使が環境改善に対する共同の取組みを進め、社会的責任を担っていかねばなりません。そして労使の真剣な取組みによって、地域・社会からの信頼と共感を得ていくことが欠かせなくなっています。

化学連合の構成組織の一つであるCSG連合(日本化学サービス一般労働連合)では、このたび「環境保全指針」を策定、企業に対して環境問題の解決に向けて共に積極行動を起こすため、労使による環境対策委員会設置による定期的な対応策の協議、地域社会への情報提供など、十三項目にわたる方針を定めています。その取組みの具体化として「有害な大気汚染物質を抑制するための企業労使での取組み」を決め、すでに活動に移しています。業界・企業の自主管理の対応を労組の立場から迫っていくことを主旨としています。大気汚染の未然防止・削減が労使のしっかりした対応にかかっているとの方針に立って、対象物質の取扱い、組合員への暴露による健康への影響、企業の排出抑制計画とその実施、関連企業への技術情報の提供・支援などの把握、チェックを促しています。こうした取組みを化学連合の共通した実践課題とし、実績を積み上げつつ、連合全体にまで活動の輪を広げるよう全力を挙げていきたいと考えています。

会員相互のいろいろな情報が得られること。 それがJ R C C会員の 大きなメリットだと思います。

取締役副社長
大村 力さん

環境を汚すことは自殺行為

—まず富士写真フイルムの特徴から聞かせてください。

大村 ご存知の様に、当社の主力製品はカラーフィルムですが、現在では非常に幅広い分野で事業を行っています。ただ、その原点はI & I—Imaging & Informationという言葉の通り、画像作りとその画像情報にあります。これらの基盤となっているのはファイン・ケミカルズ合成技術と薄層精密塗布技術です。どちらも感光材料を製造するためのコア技術ですが、そこから記録メディアや液晶関連等の分野にも応用されています。もう一つの特徴は、積極的なグローバルゼイションです。主要な工場はオランダ、ドイツ、アメリカ、ブラジル、中国などにありますが、いずれも製造及び研究開発を市場に近いところで行うという考え方に基づいて建設されたものです。こういった事業展開を図る上で、最も大切にしているのが環境に対する配慮です。当社は創業以来、環境問題については非常に熱心に取り組んできたと自負しています。創業当時、現在の足柄工場の所在地に敷地を求めたのは、水と空気がきれいだということが大きな理由です。これは、写真フィルムはごく微量の不純物によっても、その性能が左右されてしまうからです。従って、当社が事業を続けていく上で、環境を汚すということは自殺行為とも言えるわけであり、その精神は現在まで受け継がれています。

R Cの導入により、立体的な活動に

—環境問題に関するこれまでの具体的な活動内容を教えてください。

大村 各工場に環境関連の組織を作ったのが1970年、翌71年には本社に統括部門として環境管理部を設置しています。75年に素材安全性試験室を開設し、現在では通産・厚生・労働の三省からGLPの認証を得ています。83年にはグリーンファンドという公益信託を設立し、民間の環境保全活動に対する支援事業を始めました。これは全くの第3者機関に運営を委託して、金は出すけれど口は出さない(笑)という形をとっています。

—R C活動を始めたのはいつ頃ですか。

大村 1994年に富士フイルム環境基本方針を公表し、「一人一人の社員、一つ一つの組織がレスポンスブル・ケア活動に自主的・継続的に取り組み、環境上健全であり続ける富士フイルムを実現する」ことを宣言しました。その後、95年に日本レスポンスブル・ケア協議会が発足すると同時に加盟したわけです。

—社内の組織・体制に変化はありましたか。

大村 改めて組織を作るということはありませんでしたが、R C活動を始めたことにより従来とはかなり違った展開になってきたことも事実ですね。これまでも環境保全に関する活動は行われていたのですが、それは今思うと点の展開或いは線の展開だったような気がします。R Cは材料や開発段階に遡り、また廃棄に至るまで環境への影響を考慮するので、非常に厚みのある立体的な広がりを持つようになったと思います。例えば作業標準、技術標準、管理標準、品質標準といった様々な標準類、またR Cで規定するような本質的な意味での非常常作業において、以前は余り環境面からの見方ということを考慮に入れていなかったように思いますね。R C活動は、我々が作業を進めていく上で今までにない見方を持ち込んでくれたと感じています。

開発段階からリサイクルを念頭に置いて

—R Cにかかるコストについてはどのようにお考えですか。

大村 いろいろなドキュメントを整備するには確かにコストがかかります。しかし環境問題というのは、お金に換えられない面があると思います。汚染が発生してしまったら取り返しがつかないし、後追いの対策には莫大な費用と時間、労力が必要です。一方でR C活動には廃棄物の削減や省エネルギーという側面もあるわけで、それらは結果的にはコスト面でプラスの要素となります。

—日本の工場と海外の工場でR Cに対する捉え方の違いはありますか。

大村 当社ではどの国の工場でも同じようにR Cに取り組んでおり、特に大きな違いはないと思います。むしろ日本人の方が、ドキュメントの整備に不慣れなこともあり、最初は戸惑ったかもしれません。しかも一度ドキュメントを作ればそれで良いというものではなく、日々改善していかなければなりません。社会環境や技術レベルの変化に対応していかなければ、陳腐で使い物にならないということになってしまいますから。

—川下製品のメーカーとして、特に留意していることはありますか。

大村 例えば「写ルンです」の場合は、開発・設計段階からリサイクルを念頭に置いています。その結果、現在では部品点数の90%程度がリユース可能になっています。当社では消費者が直接手に取るものを製造しているわけですから、お客様の信用・信頼を常に維持していこうと努力しています。商品の品質には二つの側面があると思うんですね。一つは如何にきれいに写るかといった性能品質であり、これは高ければ高いほど良いことは言うまでもありません。もう一つ大切なのは、信頼品質というものです。写真を撮るということは、そのフィルムの価格では表わせない貴重な記録を残すことであり、ユーザーにとっては無限の価値を持っています。従っていつも期待通りの写真ができるように、製品のばらつきを限りなくゼロに近づけなければなりません。実はこれが非常に大変なことなのですが、それを可能にしているのは原則に忠実な源流管理です。原料の段階から気を配るという点では、R Cの精神に通じるものがあるかもしれませんね。



創造無限、有言実行のR C活動

—R C活動を展開していく中で、最も力を入れていることは何ですか。

大村 R Cを意義のあるものにしていくには、継続的改善を怠らないことが重要だと思います。私の大先輩の言葉に「創造無限、有言実行」というのがありますが、R C活動には正にこれが当てはまると思います。今100%だと思っても、明日になれば状況が変わっているかもしれません。停滞が許されないという意味では創造無限ですね。

—有言実行については、どのように行っていますか。

大村 グリーンファンドやリサイクル活動を含めて、環境に関する取組みをインターネットのホームページで公開しています。また「富士フイルム環境レポート」というパンフレットの発行を今年から始めました。今後もいろいろな資料を整えて、アピールしていきたいと考えています。

—J R C C会員のメリットは何だとお考えですか。

大村 会員相互の交流を通じて様々な情報を得られることですね。これには他の業界、或いは他の地域の情報があつたり、いろいろな見方があつたりして非常に勉強になります。また、加盟していることによって、R C活動を実践していますとはっきり言えるのも貴重なメリットです。社内外に説明しやすいし、何よりも自信を持って行動できるというのは大きいと思います。

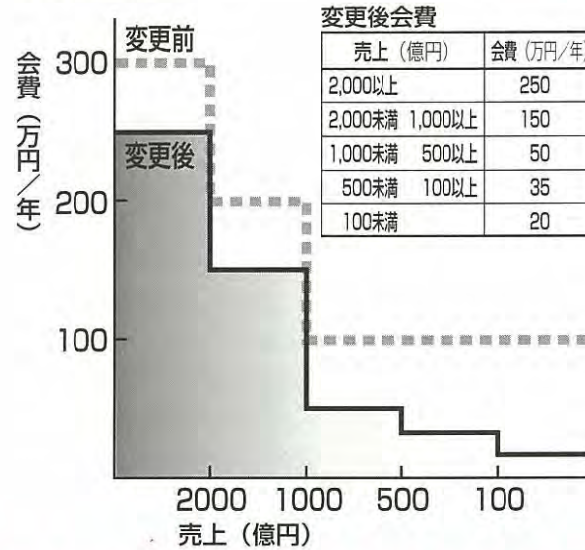
RC実施の宣誓

それがあなたのJRCC入会資格です

JRCCは会費基準を全般的に引き下げると共に、売上500億円以下の企業の会費を低減し、より多くの企業の参加が可能となるようにいたしました。

さらに、JRCC会員の子会社・関連会社に対しては、その会費を正規会費の半額とする特例も併せて設定いたしました。これはRCを身近な所から普及すると共に、化学品の全ライフサイクルに関与する一連の企業間におけるRC活動上の連携を促進することを目的としています。

JRCC会費



Q&A JRCCに加盟すると業務量が増える。他社に負けない実績を出してから加盟したい。

JRCCへの加盟条件は「RC実施の宣誓」のみです。即ち、RC実施の意思表示のみが入会資格です。RCは既存の環境、安全、健康活動を総合的に発展させ、合理化するものです。事実、多くの会員から「RCの実施により社内の風通しが良くなり業務合理化が進んだ」との声をお聞きしています。また、会員は、各々の実情と重要度に応じて一歩ずつRC活動を進めています。

Q&A ISO 14001との相違は。

RCはISO 14001をRC活動推進のツールとして活用します。RCは環境保護、保安防災、労働安全衛生、化学品安全の全てを配慮する活動です。また、RCの管理システムはISO 14001と共通する部分が多くあります。事実、多くの会員がISO 14001をRC管理システム構築に積極的に利用しています。

Q&A RCの趣旨はわかるがJRCC加盟の必要がわからない

RCはRC活動実績を社会に公表し、社会との対話を基に改善を進めていく活動です。このような活動は化学物質を製造、もしくは取り扱う企業が共通の課題と目標の下に実施してこそ可能であり、且つ効果的です。JRCCはこのような企業の受け皿として機能いたします。事実、多くの会員から「他社のノウハウ、情報の入手が自社の活動の見方を変え、推進活動機となった」「異業種の方々の考えが参考となった」「地域の情報が手に入りやすくなった」等の声をいただいています。

Q&A JRCC入会手続きは。入会後はどのような活動を行うのか。

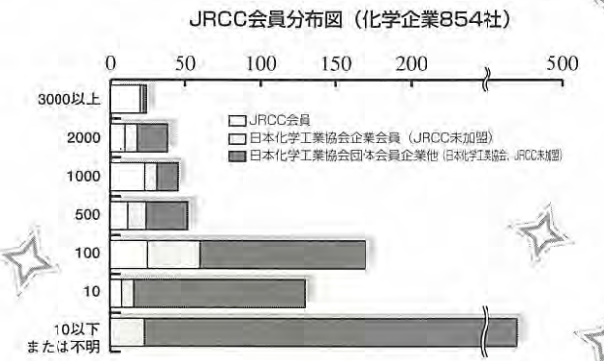
社長の署名を伴う「RC実施宣誓書」の提出により入会ができます。入会によりRCロゴマークの使用が許諾され、会員として名前がリストに登録され公表されます。入会後は毎年RC活動を実施し、その記録を年度RC計画書、実施報告書、及び内部監査実施証明書として、毎年JRCCに提出していただきます。JRCCはそれらを纏めてJRCC年度報告書として社会に公表します。個々の活動はRC実施指針等に沿って自主的に創意工夫を加えて行います。

Q&A JRCCへの参加資格は。化学企業のみが参加資格を有するか。

化学物質を製造、または取り扱う全ての企業、事業者が参加資格を有します。例えば商社、物流事業者、化学製品使用事業者等も参加できます。RCが化学品の全ライフサイクルに渡る環境・安全・健康を配慮する活動の趣旨から可能な限り広範な事業者の参加が望まれます。

◆数字に見るJRCC◆

1995年のJRCC発足以来の三年で会員数は85社となり、会員の総売上高は日本の化学工業出荷額の約70%を占めています。しかし、まだ多くの化学企業が、特に売上が500億円以下の企業の多くが、未加盟であり、RCの一層の普及が不可欠です。



新入会員の声



ポリプラスチックス(株)
技術部
山脇 正己

◆入会の動機/入会に当たって最も苦労したこと
RC活動の趣旨に全面的に賛同し、地球的視野に立ち、環境・安全を継続的かつ着実に推進し、健全で豊かな社会の実現を目指すための一翼を担うことを願ひ参画しました。苦労した点としては、環境関連では環境マネジメントシステムの国際規格としてISO 14001があり、当規格取得とRC活動参画とをどのように考慮すべきかでした。

◆当面力を入れたいこと/今後の抱負
現在まで、RC 4本柱（化学品安全、保安防災、安全衛生、環境保護）について従来の手法にて実施して来ておりますが、RC手法にのっとった全社的整備およびRC思想の普及に力を注ぎたいと考えております。

◆先輩会員への期待
JRCC加盟先輩企業様との親密な情報交換をさせていただき、より良い環境・安全活動のための助力をお願いしたいと考えております。

◆まだ未加盟の企業へのメッセージ
我々は、化学企業として、環境・安全活動を継続的かつ着実に推進するための自主的活動の手法としてのRC活動を評価し、参画しております。地球環境改善につながると確信しておりますこのRC活動に、一企業でも多くの参画をお勧めする次第です。

レスポンスブル・ケア 四日市地区・水島地区 地域説明会開催

6月20日に第4回四日市地区および7月31日に第5回水島地区のレスポンスブル・ケア地域説明会が四日市都ホテルおよび水島国際ホテルにて夫々開催されました。

四日市地区は三重県、四日市市の行政関係担当者23名の他に、JRCC会員企業、JRCC非加盟企業、および5社の労働組合から約110名の、水島地区は中国地方、岡山県、倉敷市の行政担当者24名の他、JRCC会員企業、および非会員企業の約110名の参加がありました。

両地区共、地区代表による開催目的の説明、JRCCよりRCの説明の後、各企業のRC実施事例が発表されました。



説明内容

四日市地区

- 全社のRC事例：三菱化学(株)、日本合成ゴム(株)
- 事業所のRC事例：
 - 大日本インキ化学工業(株)四日市工場
 - …WHAT IF, HAZOPのアセスメント手法によるリスクマネジメント
 - 東ソー(株)四日市事業所
 - …保安防災・労働安全衛生のヒヤリハット事例解析
 - 三菱化学(株)四日市事業所
 - …MSDSの整備・利用状況、廃棄物削減対策

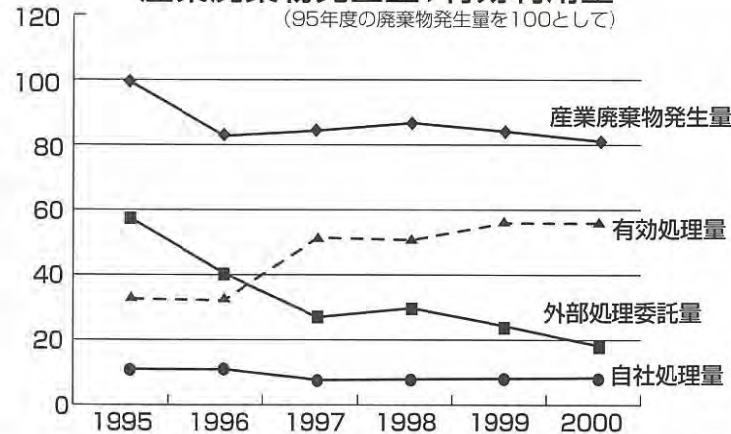
水島地区

- 全社のRC事例：旭化成工業(株)
- 事業所のRC事例
 - 三菱化学(株)水島事業所
 - …環境および保安・安全対策について
 - 日本ゼオン(株)水島支社
 - …保安防災について
 - 三菱ガス化学(株)水島工場
 - …労働災害について
 - (株)クラレ玉島工場
 - …環境・廃棄物について

RC活動事例 水島地区

株式会社クラレ玉島工場

産業廃棄物発生量、有効利用量



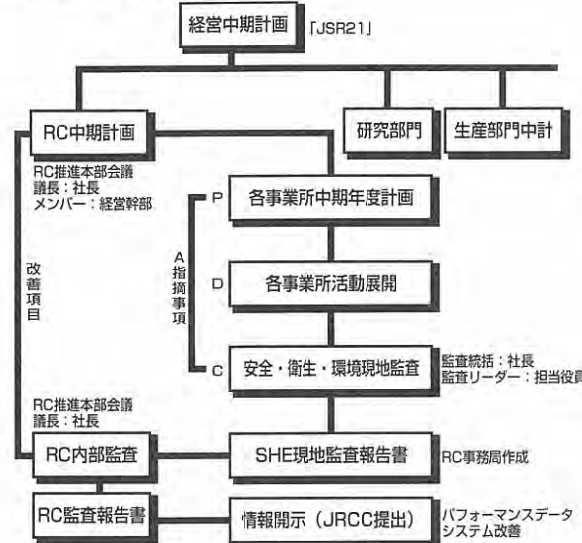
行政機関の参加者からの声

- ★RCの輪をもっと広げ、取り組みに対する企業間の格差—特徴はあっても良いが—をなるべく小さくするようRC加入の各社にお願いしたい。
- ★化学工業界だけでなく、他業界にも拡げて欲しい。
- ★内部資料を公表してもらった。これを今後活用させてもらう。
- ★各社が本音で取り組んでおり心強く思っている。多くの企業が参加して欲しい。
- ★RCの今後の展開に注目したい。

RC活動事例 四日市地区

日本合成ゴム株式会社

●RCの進め方



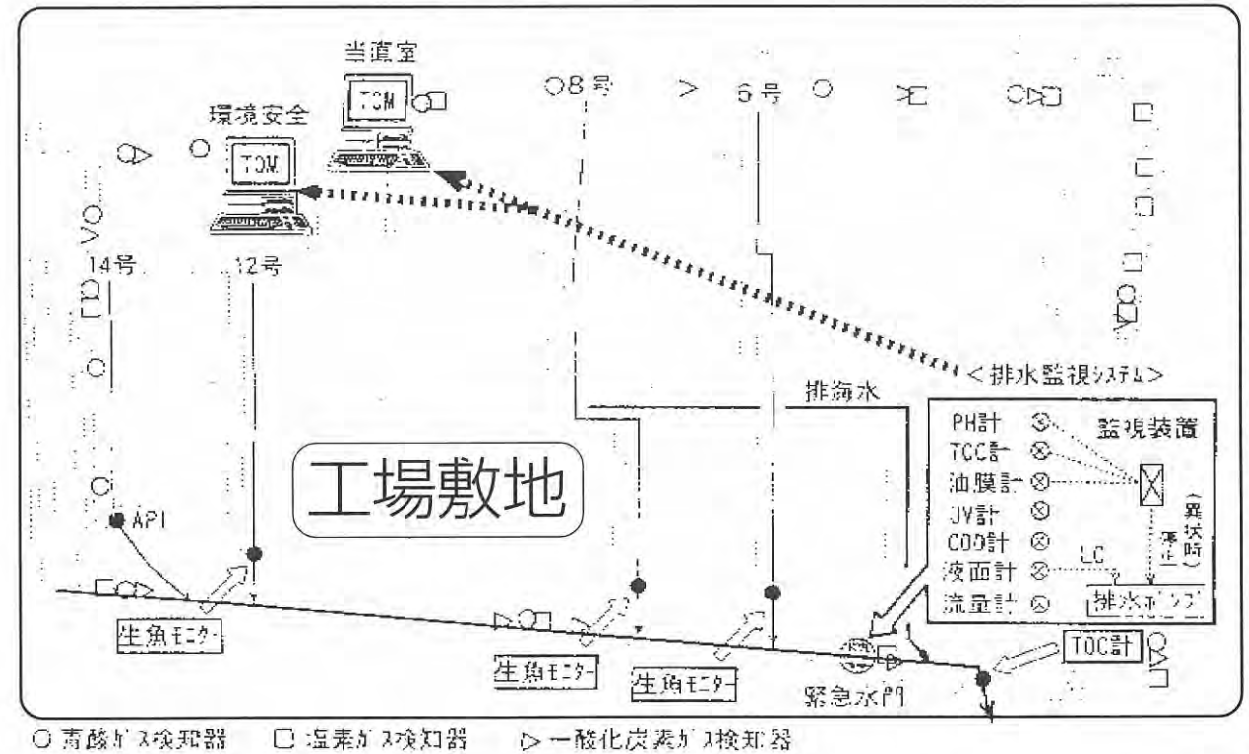
東ソー株式会社四日市事業所

●事故等の区分と重み係数

項目	危険度指数	定義	
		労働災害	プラント災害
災害	1.0	死亡	漏洩・火災・爆発による事業所全体停止
事故	0.7	休業災害	災害機器・装置破損によるプラント全停止
異常	0.5	不休災害(病院)	同上によるプラント一部停止、規格外製品
故障	0.1	不休災害(診療所)	プラント停止に至らないトラブル
不調	0.05	薬等、応急手当	修理等を必要としないトラブル、コンタミ等
ヒヤリ	0.003	応急手当不要	災害・被害なし

三菱化学株式会社水島事業所

工場境界環境総合管理 (排水、毒性ガス、騒音) システムの概要



化学連合 主催 「第1回環境シンポジウム」

5月21日にラポール日教済(新宿区)で、また26日にチサンホテル(大阪市)で、日本化学産業労働組合連合(化学連合)主催の第1回環境シンポジウムが開催され、「RC運動の取組み」について説明しました。化学連合5組織からの約100名の参加者に、基本的なRCの考え方・進め方を中心に説明、今後の発展に労使の相互協力が不可欠であることを訴えました。労働組合の環境・安全に対する意識は高く、CSG連合が本年6月に策定した「環境保全指針」をはじめ、各単産とも運動方針や政策の中で環境問題への取組みを掲げています。国際的にもRC活動に労働組合とのパートナーシップを求める声が高まっている今日、わが国の労働組合のこのような動きは極めて前向きなものと言えるでしょう。



東京都南部薬事衛生事務所 主催 「毒物劇物販売業者講習会」

6月17日に目黒区民センターホールで、東京都南部薬事衛生事務所管内の毒物劇物販売業の優良業者を対象に講習会が開催されました。約800名の参加者に、毒劇物を含めた化学物質の総合安全管理についてRCを中心に説明を行いました。本事務所では毒劇物の適正な保管管理の指導徹底に努めているとのことで、保安・防災に限らず環境問題にまで視野を広げた活動を目指すこのような取組みを、われわれとしてもできる限り支援していきたいと思えます。

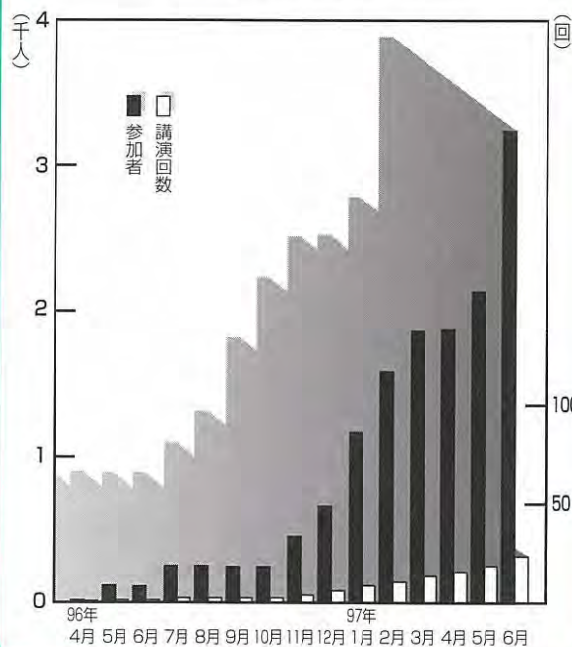


日本化学産業労働組合連合 事務局長・山根昭昶氏



我々の生活が安定して成り立ってゆくためには、産業基盤の確立が欠かせません。そして産業の将来を制する重要な問題の一つが環境問題です。化学産業は環境面におけるノウハウを有する産業と自負しており、労働組合としても産業の中における労使関係を通してその責任を果たしたいと考えています。その手始めとして5月にシンポジウムを行ったのですが、多数の参加者を得られたことにも環境問題への関心がいかに高まっていることが表れています。しかしRCについては、既に十分知っていた人もいれば、中には初めて聞き知ったという人もいました。そのような人にさらに一押し二押しと丁寧なRCの主旨を訴え、より多くの理解者、協力者の輪を広げることが大切です。一業界の枠にとらわれず、あらゆる手段を通じて広報活動、教育宣伝活動をして、出回るだけ多くのRCの種をまき、化学のイメージアップ、また化学産業の発展という花を咲かせることを期待しています。(談)

RC 講演実績 (累計)



J R C C だより

JRCCパンフレット改訂

パンフレットを改訂しました。大いにご利用ください。



環境白書でRCを紹介



環境白書表紙とRCの記事

Box25 PRTRと他の化学物質安全管理手法との連携

PRTRのほかにも、化学物質安全管理手法として、従来提案され、実施されているものがある。これらの手法とPRTRは共に包括的な管理を相互補完的に推進していくものである。

化学物質安全性データシート (MSDS)

MSDSは化学物質ごとに有害性をはじめとする物質性状やその安全な取扱方法等をまとめたもので、化学品のメーカーが作成し、ユーザー企業に伝達される。PRTRにおいて対象となる環境汚染物質ごとに排出量・移動量を把握するためには、ユーザー企業が自ら使用する化学品の成分を知る必要があるため、MSDSが実施されることで、PRTR対象物質の成分情報が末端ユーザーまで提供されるようになる。

化学物質の地域管理

地域における化学物質の総合的な環境安全性を確保するため、事業者による自主管理の徹底を基本とする化学物質の地域管理への取組がなされている。PRTRは、環境リスクの定量的把握に必要な基礎情報の承継的な把握手段となるため、自主管理の促進やその実施状況の評価を可能にする。

レスポンシブル・ケア

レスポンシブル・ケアとは、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から廃棄に至るすべての過程において、自主的に安全・健康・環境への対策を行う活動である。PRTRに関する取組としては、このレスポンシブル・ケアの一環で化学物質排出量調査が実施されている。

環境管理・監査

環境管理・監査の重要な要素となり得る環境汚染物質の排出・移動量の客観的な点検・把握、自主的削減目標の設定等に際して、PRTRの情報は有効である。



RCも化学業界の外でも徐々に知られるようになり、「化学の環境・安全・健康活動はRC」とまで言われるようになってきました。

しかし、RCが名実共に社会から認知されるためには、環境・安全・健康に関する改善実績をより多くの企業があげること、それを社会と分かり易い形で対話すること以外にありません。私たち、JRCCの道はまだまだ広く、遠いことを痛感します。

日本レスポンシブル・ケア協会ニュース No.7

RC "RESPONSIBLE CARE"

～1997年・秋季号～

1997年9月1日発行

編集兼発行人 山中 正美
 発行所 日本レスポンシブル・ケア協会
 〒100 東京都千代田区霞が関3-2-6
 TEL 03-3580-1381
 編集協力 株式会社 創言社
 〒102 東京都千代田区九段北1-4-5
 TEL 03-3262-6275